

2. 民意を活かした総合的なまちづくりプラン

時代の潮流に沿った地域の課題解決のために、本計画の役割が重要です

全国的に人口減少・少子高齢化はいっそう加速し、地域社会や集落の存続が危ぶまれる状況です。今後は、持続可能な地域社会を構築するために、時代の潮流と本市の特徴を的確に捉えることが重要です。

【時代の潮流】

- | | |
|--------------------|----------------|
| ①人口減少・少子高齢化の加速 | ②産業・雇用構造の変化 |
| ③循環型社会への移行の必要性の高まり | ④暮らしの安全・安心への脅威 |
| ⑤地方分権の進展 | ⑥高度情報化社会の進展 |

(1) 本計画の目標人口（本計画の施策の目標年度は平成45年度）

本市が直面する状況も踏まえ、本計画における目標人口は、「人口の減少を鈍化」させるという観点から設定します。概ね 20 年後である平成42 年度の目標人口を 51,000 人と設定します。

(2) 本計画の役割

本計画は、下記の役割を担う計画書として策定します。

①まちづくり施策のマスタープランとして機能すること

本計画は、「まちづくりの基本方針」を策定し、都市計画に限らず、まちづくりに関する個別計画策定や施策全般の指針として機能することを目指します。

②今後の都市計画に関する施策・事業の「指針」として機能すること

都市計画についても、集中と選択、ハードとソフトによる効果的な行財政投資が必要な時代を迎えたことを踏まえ、今後の適正な都市計画に関する施策・事業の指針として機能することを目指します。

③まちづくりに活かせる「データブック*1」の機能も併せ持つこと

「各種の整備方針、計画等」を策定する際の前提となる数値的データを出来る限り地図上に示した分かりやすい「データブック*1」としての機能を持たせます。

将来へ向けて、まちづくりに活かせる要素や正確な情報をみんなが理解し共有することが、本計画書の重要な役割です。

④「マネジメント型*2」の柔軟なマスタープランの機能を有すること

市町村の都市計画マスタープランは、概ね 20 年後という長期の計画期間で策定されることが一般的で、その見直し時期も明確な規定はありません。本計画では、社会情勢の変化に柔軟に対応できる「マネジメント型*2 のプラン」となるように、定期的に更新し、見直しを行います。

※1「データブック」：点・線・面の地図情報と資料・統計情報等をできるだけ関連付けた総合情報。

※2「マネジメント型」：目的を効率的に達成するために維持・発展を図ることで、変化への対応も図る考え方。